

SYOHEI ニュース 令和8年3月号

新医療センター整備を進めています

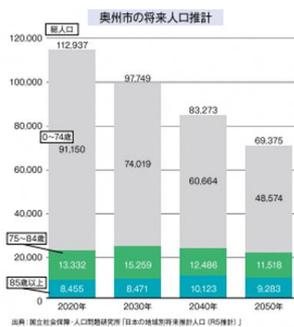
奥州市が整備を進めている新医療センターは、医療のみならず、子育て支援や健康づくり等に関する機能を兼ね備えた複合型の施設です。

令和7年6月に基本計画を策定し、令和8年3月からは、基本設計の作業に移行する予定です。

今回は、同センター整備の背景と基本計画のポイントを中心にお知らせします。

1 整備のねらい

- ① 2040年問題を背景に、時代に即した規模への縮小と新たな医療ニーズへの対応
- ② 今後の超高齢化社会を見据えた地域医療体制の確立や、住み慣れた地域で暮らしていける地域包括ケアシステムの推進が、その大きな目標です。



～2040年問題とは～

- ◆ 超高齢化社会の到来が生じる様々な社会問題です。
- ◆ 奥州市の人口推計では、総人口は急激に減少する一方、後期高齢者は横ばい傾向で、85歳以上はむしろ増加します。
- ◆ これらを踏まえ、将来に向け、高齢者特有の医療のほか、介護や生活を支える仕組みが必要です。また、虚弱予防やヘルスケアなど健康寿命の延伸も重要です。

2 新医療センターのポイントは？

- ① 総合水沢病院を時代に即した病院に転換します。
- ② 妊産婦サポート、子育て支援、健康寿命延伸などの取組を推進します。
- ③ 地域医療行政(医療介護連携)の推進拠点とします。

3 どうして必要なのか？

- ① 総合水沢病院は、救急や感染症の対応などで大きな役割を果たしており、その機能は必要です。
- ② 他方、同病院は、老朽化が著しく、耐震性能も低く、早期の抜本的な対策が必要です。
- ③ 現病院の役割を受継ぎ、将来必要な医療ニーズにも応えるため、新施設の整備が必要です。

4 整備基本計画(令和7年6月決定)の内容は？

- ① 面積は、病院 7,600 m²、コミュニティ施設 2,660 m²
- ② 整備場所は、水沢公園陸上競技場。
- ③ 概算事業費は 109.7 億円。市民の実質将来負担 34.2 億円(1年あたり 1.1 億円)
- ④ 診療科は、内科、総合診療科、外科、小児科、整形外科を必須とし、その他も可能な限り検討。
- ⑤ 病床数は一般病床 80 床(水沢病院の許可病床は現在 135 床)、感染症病床 4 床
- ⑥ 資金収支は、開業後 10 年間は資金維持が可能な見通し。
- ⑦ コミュニティ施設には、産後ケア専用室や子供の遊び場などを設置。



完成した際のイメージ図。実際の外観などは、今後の設計で決めていきます

以下、裏面に続く

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和8年2月26日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第71号

新医療センター整備を進めています・・・表面の続きです

5 なぜ水沢公園の陸上競技場なのか？

① 公共交通の利便性の高さ、国庫補助金活用の観点から「市街地エリア」を選択しました。

ポイント！

- ◆ 高齢者の利用頻度が高い公共交通の利用に便利
- ◆ **コンパクトシティ**を促す立地適正化計画エリア内で国庫補助金の活用が可能。

② **陸上競技場**は市有地であり、水沢公園との相乗効果にも期待可能です。

ポイント！

- ◆ 市有地であれば、用地取得費が不要で、低コストかつ速やかな着工が可能。
- ◆ 施設規模に対し、駐車場を含めた敷地として広さがちょうどよい。
- ◆ リニューアル予定の水沢公園と隣接し、健康づくり等の相乗効果に期待。
- ◆ **水沢市街地エリアプロジェクト**の狙い(利便性の高い居住空間創出等)にも合致

～「コンパクトシティ」とは～

- ◆ 生活利便性の維持・向上を目的とし、居住や生活サービス機能の集積化を図る都市構造をいいます。
- ◆ 人口減少や高齢化が進むと、買い物、医療・福祉などの生活サービスの維持が困難になることが予想されます。そのため、コンパクトシティ化で都市機能をなるべく集約し、住民の生活を守っていくという考え方です。

～陸上競技場に建設する具体的なメリット～

- 国庫補助金の活用 ⇒ 約 20 億円
- 用地取得・造成費の経費縮減 ⇒ 約 4.5 億円
- 事業期間の短縮(農地の場合と比較) ⇒ 用地取得で 18 か月、造成工事で 12 か月短縮



6 現地建替えはできないのか？

- ① 現地建替のメリットは、新たな用地取得が不要で、移転後の跡地活用も必要ないことなどです。
- ② 一方、次のようなデメリットも大きく、整備候補地とするのは困難と判断しました。
 - ◆ 診療継続のため、本館を残す必要がありますので、それ以外の建物を取り壊したとしても、建て替えに必要なスペースを生み出せません。
 - ◆ 現地での診療を継続することから、工事期間中の振動や騒音で、診療環境に大きな支障が生じます。また、駐車場も確保できません。
 - ◆ 検査手術棟及び旧精神科病棟にある手術室、臨床検査室、透析センター等の機能を移設する必要が生じ、余分な工事費が発生します。

令和7年6月議会において、次のステップとなる「基本設計業務」の関連予算をご議決いただきました。今後は、この作業を進めながら、新医療センターのコンセプトへの理解が深まるよう、また、医師確保や安定的な運営への不安が払拭されるよう、所要の説明に意を尽くしてまいります。

7 整備スケジュール

時期	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
基本設計 実施設計	■	■	■			
建築工事				■	■	
開所準備・移転 開所						★